



北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会
2007 / 9 / 7(金)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 5

南空知管内から日体大大学院に勉強に行っている柴田誠尚先生が長野県杵池高原で行われたジュニアバスケットボール指導者のためのサマーキャンプの様子を報告してくださいました。広く北海道の指導者の皆さんに全国の情熱を感じ取っていただきたいと思います。

「2007 Summer Camp In Tsugaiké」

8 / 30, 31, 9 / 1の3日間、長野県杵池高原にてジュニアバスケットボール指導者のためのサマーキャンプが行われました。初めての試みではありましたが、講師には日本を代表するジュニアバスケットボール指導者が名を連ね、各々が今までに蓄えた知識を惜しまず披露する場として広く全国各地から指導者が集まりました。

この会の総括的な立場として原田茂氏(元全日本女子ヘッドコーチ)、鷲野先生や杉浦先生、久保先生、橋田先生、コーチ K こと加藤氏などがオムニバス形式で講習を進めていきました。

日程や講師の略歴などはhpにも配信されていますので省略させていただきますが、開講式から始まり最初の講習は先の山形全中で男子3位になった新潟本丸中の富樫先生が校務の隙間を縫って来られていたので、短い時間でしたがパワーポジション、バスケットボールに向かう姿勢などご自身のコーチの経験談も織り交ぜ話してくれました。

次に長野県ジュニア強化の中心である久保先生は、アメリカのコネチカット大で勉強されたモーションオフェンスの作り方を高校生のモデルを使いながら丁寧に指導してくれました。そして、参加している子どもたちに対して指導者が実際に指導するという形式で進められ、場面によってどのように言葉をかけたり、指示したりするかなど原田氏が的確なアドバイスを加えながら効果的指導法を学びました。

加藤氏によるシェービングドリルでは、鷲野先生や杉浦先生がU15のコンセプトを交えつつアドバイスを加え、U15でも推奨している11種類のミートの分解練習も行いました。

夜の部では、ボールハンドリングの必要性を説き、高校生のモデルを見本として鷲野先生が丁寧に指導してくれました。違った視点から杉浦先生のボールポジションの考えも聞くことができました。

場所を変えての座学では、指導者からの意見質問に講師が答える質疑応答が行われました。「ミニバスにおいてVカットの指導時に振り切り方などの教え方が難しい、…」などの質問からはじまりバスケットボールの技術構成や指導体系などに話が及び、マンツーマンdefとプレスdefの違いは?など当たり前のことをどの程度理解し、指導できているか、指導者として改めて考えさせられる貴重な講義となりました。

2日目の午前中は、指導者が身をもって原田氏の指導を体感するというサプライズな講習となり、指導者は騒然としていましたがdefフットワークから始まり3対3、5対5と1時間弱でしたが、思うように体が動かない指導者たちに「選手の気持ちができるでしょ?」と叱咤激励を加えながら、「何をさせなきゃいけないか?」「どうしてやるのか?」「何のためにやるのか?」をしっかりと指導者が理解して指導を進めなければいけない!と強く指摘していました。

午後からは、杉浦先生がボールミート、キャッチ、ムーブ、ポジションの考え方を話した後「スペーシング2対2」を行いながら、スペースに動くタイミングやパスのタイミングなどを丁寧に指導してくれました。

午後の最後は、今回最大の見所となった原田氏による「原田式1-1-3ゾーンdef」を細部にわたり丁寧に指導してくださいました。午前中同様に指導者が実際にモデルとなり、フロントライン、バックライン、オフェンスをつけての事例など惜しげもなくポイントを披露してくださいました。私自身もフロントラインdefを担当し、久しぶりに頭と体をフル回転させながら動き回りいい汗?をかかせていただきました。

夜の部では、「チーム内で能力に差がある選手に対する指導方法」「1-1-3ゾーンdefのしかけるタイミングやコツ」などかなりつつこんだ質問が出てきましたが、どの講師も自分自身の考えを惜しみなく披露し、回答してくださいました。

この日の夜には、地元の宿舎などキャンプの協力者が集まり懇親会が行われました。アルコールもほどほどに皆さん熱くバスケット談議に花を咲かせていました。

最終日、午前中はミニバスケの指導者である橋田先生によるU12のファンダメンタルを行いました。とにかく楽しく技術を身につけさせるメニューの工夫が随所に見られ参考になるものが多くありました。

午後は、原田氏による総括。チームで参加している選手で5対5を行いながら問題点をあげ、よりよりオフェンスシステムを確立するという内容で進められた。

原田氏の効果的な指導でどんどん上達していく選手たちを見ながら、いかに気づかせるか?いかに理解させながら指導を進めるか?のいくつかのポイントをあげてわかりやすくレクチャーしてくださいました。

かなり雑駁ではありますが、簡単にレポートとしてまとめてみました。とにかく指導者のレベルを引き上げたい、裾野が広がれば山の頂点は高くなる、アメリカの指導者はシーズンが終了したらその年のシステムや経験を必ず披露するが、日本の指導者は成功したシステムや経験を自分だけのものとし隠し通す、今回榎池に集まったトップ指導者たちはなんとか日本のバスケットボールのレベルを上げたいと願っており、そのきっかけとして自分たちが持っている知識や経験を身をもって披露していこうと考えていることを感じる事ができました。

新しいことを始めるときにはとにかく犠牲にすることも多く、エネルギーも必要となります。しかし、それ以上に協力してくれる仲間と強い思いがあれば成し遂げることは可能となり、大きな収穫となるのではないかと思います。

来年以降もこのキャンプが続き、「夏は榎池に、、、」が全国の指導者の合言葉となることを祈念して、レポートを閉じたいと思います。

2007年9月
日本体育大学大学院
柴田 誠尚

HBA（北海道バスケットボール協会）指導者育成専門委員会